

新校舎の2025年春の竣工に向けて、 安全祈願祭を挙行了しました



<新校舎 完成予想図>



2023年11月10日(金)9時30分から、新校舎の安全祈願祭(起工式)が執り行われました。

建築予定地である2号館、3号館跡地に設置された大型テントの中には祭壇が設えられ、本学教職員、設計事務所、施工業者の関係者等、約30名が用意された椅子に着席しました。斎主は宗忠神社の宮司が務められ、安全祈願祭は、開式ノ辞の後、斎主参進、修祓(けがれを祓い清めること)、拝礼、献饌(神前にお供えをすること)、祝詞奏上と、粛々と進められました。未明から降り続いていた雨も、四方祓ノ儀の折にはやんでいました。

鍬入れノ儀では、刈初ノ儀を株式会社木村設計代表取締役の高田聖次さん、穿初ノ儀を本学学長の井尻昭夫が、堀初ノ儀を蜂谷工業株式会社取締役社長の蜂谷泰祐さんが、それぞれ務めました。

その後、玉串奉奠、鎮物(土地の神をしずめるため地中に埋めるもの)授下、撤饌(供え物を下げること)、乾杯、斎主退下が行われ、閉式ノ辞となりました。

安全祈願祭の後には、学長の井尻昭夫から「1965年の開学から少しずつキャンパスの整備を行ってきた。記念すべき60周年には若者たちを新しい校舎でお迎えしたい。かつてない新しいコンセプトの建物で、新しい人材を育成していきたい」との挨拶がありました。

当日は多くの報道陣が詰めかけ、安全祈願祭の様子を撮影し、関係者へ新しい校舎の特徴やそれに込めた思いをインタビューしていました。安全祈願祭の様子はお昼のニュースや夕方のニュースで放送されました。また、翌日の山陽新聞紙面でも詳しく紹介されました。(総務企画課)

CONTENTS

<商大トピック>

- 模擬裁判を実施しました ●「締めくくりの季節…最終講義に寄せて」
- 竹灯籠づくりワークショップ ●京山地区ESD・SDGsフェスティバルに参加して

<情報アラカルト>

- 2023年度の部活動の主な戦績 ●新校舎をVRで体験できます
- 税理士と宅地建物取引士の合格について

商大 トピック

Topic

1

模擬裁判を実施しました

2023.10.15

10月15日の大学祭の日にあわせ、模擬裁判を実施しました。2023年のテーマは特殊詐欺でした。いわゆる受け子とかけ子の間に入った仲介役のような人物を被告人にして、詐欺罪の故意の認定と共犯の成否を争点としました。特殊詐欺によって生じる被害自体ももちろん問題ですが、最近高額報酬につられて安易に受け子等のバイトに応募してしまい、若い人が加害者の側として巻き込まれてしまうことも大きな問題となっています。そのような問題も取り入れて、学生には脚本を作ってもらいました。また脚本作成は、新型コロナウイルス感染防止に基づく制限が撤廃されてまもなくの時期から開始しましたので、マスクの着用や、旅行の制限などのネタも盛り込み、コロナ禍の記憶を残す脚本となりました。

「詐欺」も「共犯」も、刑法上難解とされる分野で、聴講する学生さんには難しい内容だったかと思いますが、100名近くの学生さんが熱心に聴講し、グループワークにおいて議論を戦わせてくれました。事後の感想では、「気がつかないうちに詐欺に加担していたという事が自分にも起こる可能性があると思い、気をつけようと思った」「昨年も参加したが、昨年より知識もつき、より深い話し合いが出来てより冷静に判断ができるようになったと思う」「本物さながらのような裁判で緊張した」等の声が聞かれました。

(法学部 准教授 加藤摩耶)

Topic

2

ふれあいフェスティバル in 東児

2024.11.4

商学科西春奈助教による玉野市番田地区でのフィールドスタディ「玉野市番田地区特産の番田芋を活用した新商品開発プロジェクト」について、本年度から「株式会社なかや宗義」、「小倉産業株式会社」等の協力を得て同地区で栽培したさつま芋である番田芋を使用した商品(お土産ブランド)開発を実施しています。5月に「ばんだ農園」に於いて商学科西春奈ゼミの学生13名が原材料となるさつま芋の植え付け作業を行い、秋に収穫を行いました。そのフィールドスタディの一環で、11月4日(土)に開催された「ふれあいフェスティバル in 東



児2023」(主催:東児商店会)に参加しました。

学生が東児地区の地域資源(番田芋)のブランディング事業に携わっているという、活動の経緯や今後の展開をまとめたパネルを展示し、ステージで10程度のPRを行い発信しました。同時に商品開発を進める「番田芋どら焼き(仮称)」のテストマーケティングを行いました。アンケートで得られたデータを分析し、商品改良を重ねる予定です。

(産学官連携センター)

Topic

3

竹灯籠づくりワークショップ

2023.11.5

真庭市社地区では、社地域振興協議会が地域資源を生かした活性化の取り組みを行っています。本学は、2017年から学生や教職員が活動に協力していて、その一環として2023年11月5日に竹灯籠づくりワークショップが実施されました。この活動は地域内の竹林を整備した際の竹を灯籠に加工するもので、竹灯籠は大晦日の「社の竹あかり」というイベントで点灯され、佐波良(さわら)・刑部(かたべ)神社の大杉を美しく照らします。ワークショップ当日は、教職員3名と学生4名が参加し、地元の方々も協力して作業を進めました。竹灯籠作りは、切り出した竹にデザインが施されたシールを貼り付け、シールの丸印の大きさに合わせて電動ドリルで穴を開けるという工程で進められます。この穴開け作業が大変で、学生は慣れない電動ドリルの扱いに苦戦しながらも、地元の方の教えもあって次第に操作に慣れていき、次々と竹灯籠を完成させていきました。完成した竹灯籠の内側に照明を入れて点灯した時には学生から歓声が上がリ、充実感を味わう瞬間となりました。このように地域活性化の取り組みに自らが関わるといった経験は、学生にとって普段の大学生活では得られない貴重な機会となりました。(経営学部 准教授 大石貴之)

Topic

4

香川県三木町小菰(こみの)地区での農泊モニターツアーについて

2023.11.15 - 16

農林水産省との包括連携協定に基づく農泊事業について、JTB岡山支店及び下電観光



バスが実施する「香川県三木町小菰地区農泊モニターツアー」のため、11月15日(水)、16日(木)に学生6名を派遣しました。派遣学生については、今後のインバウンドに備えたいとの要望により、韓国からの留学生2名と日本人学生4名の計6名で構成しました。ツアー内容は、新割(かまど炊爨体験、こみの里山ウォーキング(野菜収穫、ヤギの餌やり体験、寺での写経等)、猪肉を使用したジビエハンバーグ調理、使用済み米袋を使用したエコバッグ作り体験を行いました。

意見交換会では、小菰農泊推進協議会から「10年ほど前には、人口が250人いたこの地域が、現在では126人、10年後にはどうなっているか。活気をつけて一度訪れた人がまた来たいと思える地域にしたい」「頑張っていくために3年前に宿泊施設やカフェを立

ち上げたが、その時期にコロナがはやってしまい腰を折られた形となってしまった。若い皆さんの意見を取り入れ活気づけたい」と述べ、学生からは、「小菰地区を検索する際に、小菰を漢字変換してもスムーズに出ないため、平仮名で検索し直しても出てこない。SEO対策として『こみの』を広めて検索エンジンに引っかかりやすくした方が良い」や「学生は、旅行先を決める際にInstagramのタグ発信やAirbnbから探すことが多いので発信力を高めてほしい」などの意見がありました。協議会からの「外国人宿泊希望者に対する対応方法が分からない」との質問に対し、「外国人旅行者は、言語が通じないことに慣れているためGoogle翻訳等を使用し、旅行者側自らが対応するからさほど気にしなくてよい。」と提案を行いました。

1月15日(月)に学内に事後研修会を行い今年度の事業を終了しました。

(産学官連携センター)

Topic

5

「キッズビジネスパーク2023」における学生のボランティア活動

2023.11.23

2023年11月23日に「キッズビジネスパーク2023〜岡山でみつける、わたしの未来〜」が環太平洋大学にて開催されました。一般社団法人教育ソリューション研究協議会を主催とした新たな体制で、新型コロナウイルス感染症拡大以来、実に4年ぶりの開催となります。

これは小学3年生〜6年生を対象とした就業体験イベントで、労働をすることで専用通貨「ビーチ」を取得し、空き時間にはこれを使用して買い物(消費活動)を行うことができるというものです。参加児童272名、出店企業26社/団体という規模で、本学からも15名の学生がボランティアスタッフとして参加しました。

今回は、「学生の成長」という視点を強く取り入れ、学生達は企画段階からミーティングに参加することになりました。イベントの目的を達成した上で、参加者の満足度を高めるには何をすべきか、何が必要かを考え、それを実行するという一連のプロセスを経験することができたのではないかと思います。特に「実行する」という要素があったことにより、予算や設備などを考慮した実行可能性という視点を養ったことは貴重な経験だったといえるでしょう。また、他大学の学生も参加する中で、本学の学生がリーダーシップを取って活動の中心となっていた姿には頼もしさを感じました。

(社会総合研究所 次長 吉良友人)

Topic

6

総社市インターンシップ政策提言

2023.11.29

総社市インターンシップ成果報告会が11月29日(水)に総社市総合福祉センターにて行われました。総社市とのインターンシップは2020年度の包括協定の締結からスタートし、4年目となる今年度は、公務員



を目指す学生5名が参加し、そのうち4名が政策提言に臨みました。

提言に先立ち、三好産学官連携センター長から「毎年、インターンシップ生をお受け入れ下さり、また丁寧な指導をしていただき誠にありがとうございます。学生の皆さんは、指導いただいた恩返しとして受け取ったものを精いっぱい、政策提言としてお返しできるように頑張ってください」と挨拶がありました。

実習生の清水真梨(経営学科3年)は「インターンシップでは、市内の様々な施設を見学し、どのようにしたら市民の方に活用いただけるかを考えました。また卓球教室にも参加させていただき市民の方々と直接触れ合え貴重な経験をさせていただきました」とインターンシップを振り返り政策提言へ移りました。学生からは「市民向けスマホ教室」や「高齢者向け防災教室」、「雪舟生誕地公園の活用法」など様々な提言がありました。

片岡市長から「政策を実行するには、多数決で可否を問うわけですが、本来なら事前に予測をして反対4割程度、賛成6割以上ならば進めていくことが多いです。しかし、時として反対が多いが、その反対派を押ししのけてでも進めていく政策もあります。それはなぜかというと、その政策の奥にいる市民の方々に対して「愛」や「情熱」を持って魂を込めて市民の方々に幸せにできる政策ならば信念を持って突き進めていきます。皆さんも、今回の経験を活かし、今後の人生において自分の思いに信念を持ち、魂を込めて、誰を幸せにしたいかを日々考えながら、様々な場所、場面で頑張ってください」との総括の言葉をいただきました。

その後、修了証を交付され成果報告会は終了しました。

(産学官連携センター)

7

「締めくくりの季節…最終講義に寄せて」

2024.1.10

2024年3月に退任いたします、法学部の九鬼一人です。そのセレモニーとして、2024年1月10日三限目に、772教室で、「公共の倫理学」最終講義を行いました。「ポーランドの空から降る声」と題して、強制収容所と倫理の問題を扱いました。本来なら学問的総括として、「非帰結主義と新カント学派」を講義すべきだったかもしれませんが、学問以前的なこだわりを優先させました。学生諸君には、さぞ精神的負担がかかったものと後悔しています。また、いつもながらの「九鬼的」?な振る舞いによって、関係各位にはご迷惑をかけました。改めてお詫び申し上げます。

ここで教育人生の一応の締めくくりを迎えましたが、今後も学生生活は継続してゆくつもりです。最終講義でも取り上げた、「思い切りの悪い決断」については、宮沢賢治の晩年の処し方を題材にして、非帰結主義研究の応用として展開するつもりです。また最終講義で取り上げた樹村みのりについては、代表作「海辺のカイン」の考察が残っています。という次第で、後ろ髪を引かれる思いではありませんが、学窓を去ることにいたします。ここに



至るまで学びを支援して下さい、学長先生、諸先生、並びに職員の方々、どうもありがとうございました。

(法学部 教授 九鬼一人)

8

つぼみ主催犯罪被害者遺族講演会を開催しました

2024.1.17

1月17日(水)、第6回犯罪被害者支援部つぼみ遺族講演会を開催しました。今回は講師として、2019年にも本学に来て下さった武るり子さんをお招きし、「被害者になるってどんなこと〜少年犯罪で息子を奪われた母親の想い〜」というテーマでご講演を賜りました。武さんの息子さんは、平成8年に少年達の一時的な暴力により、16歳という若さで亡くなりました。近年犯罪被害者支援施策は、京都アニメーション事件や北新地ビル放火事件の影響もあり、拡充の動きがありましたので、講演に先立ち、つぼみの学生が「犯罪被害者支援の変遷と今後の展望」と題して若干の発表をしました。岡山県内の各自治体の被害者支援の施策なども紹介し、自治体間格差の状況も踏まえながら、今後国による支援拡充へ向けて期待されることを発表しました。ご講演では、事件当時の被害者支援の不十分さや無理解、マスコミの不正確な報道に苦しみられたご経験から、自分で正しい情報を見極めることや、ルールを守りながら、自分の権利を主張し続けることの大切さを訴えられました。また、大学生の活動に勇気づけられているとお話くださいました。

なお、講演会の開催に合わせて、古本を寄付しその売却代金を犯罪被害者に遭われた方々への支援活動に役立てるホンデリングプロジェクトのために古本回収も実施しました。

(法学部 准教授 加藤摩耶)



9

京山地区ESD・SDGsフェスティバルに参加して

2024.1.27-28

2024年1月27日(土)に岡山市立京山公民館にて開催された、「京山地区ESD・SDGsフェスティバル」に参加しました。「京山から実践!SDGsでつながる未来」を今年度のテーマとして、同地区のこども園から大学、企業及びNPO等、様々な団体がフェスティバルを盛り上げました。本学からは、ネパールの留学生が「Song&Dance」にてネパールのダンスを披露。犯罪被害者支援部「つぼみ」が「カムカムトーク〜SDGs交流会〜」へ出演。三好ゼミ4年生有志が物品販売ブースにて、五果苑「越冬ぶどう」を使用したぶどう飴等の販売と、3つのグループが参加しました。

ネパール留学生のダンスは大変好評で、実



行委員長の池田氏から「参加者の方々が大変喜んでいました。来年度以降も継続して参加して欲しい。また、夏には京山地区の盆踊りなどの祭りもあるので、そこへも皆さんで遊びに来て欲しい。」との言葉をいただきました。

(産学官連携センター)

10

社会総合研究所後援会役員会を開催

2024.2.27

2024年2月27日、社会総合研究所後援会役員会を岡山プラザホテルにて開催いたしました。後援会理事のみなさまをお招きして現況と今後の展望についての報告を行い、理事のみなさまからは貴重なご意見を賜りました。

「デザインという視点」を持つべきであるというご意見や昔とは状況が変わってきているのでそれに応じた変化が必要であるというご意見、学生発信で岡山商科大学の良さをアピールすることが重要であるというご意見があり、今の時代にマッチした「岡山商科大学ならでは」を考える必要があると感じました。

また、DSLプログラムについて、データ分析ができる人材を企業で育てるのは時間がかかるので、プログラムの修了をもっと周知していけば企業に対するアピールにもなるのではないかとご助言もいただきました。さらに、地域においてネットワークの数と太さが大切であり、フィールドスタディをこれからも続けていって欲しいけれど失敗もつきものなので、自分達の経験を参考にしたい欲しい、協力は惜しまないという有難いお言葉もいただきました。

今回も第一線で活躍中のみなさまから貴重な生の声をお聴きすることができましたので、社会総合研究所もこれらにしっかりと向き合っていく所存でございます。

(社会総合研究所 次長 吉良友人)

11

2023年度学生懸賞論文について

2023年度の学会主催学生懸賞論文に4編の応募があり、本学教員の査読に基づく厳正な審査の結果、以下の賞に決定いたしました。

【地域振興に関する事柄の部】

佳作	アニメ聖地の成立とその展開〜アニメ「からかい上手の高木さん」を利用した香川県小豆郡土庄町の旅客誘致に関する研究〜	経済学部・4年・寒川史久斗
	プロスポーツチームが地域経済に与える影響〜フジアーノ岡山がJ1に昇格した際の経済効果の簡易試算〜	経済学部・4年・海透祐也

【自由論題の部】

佳作	ホームセンターの海外進出が株価へ与える影響に関する分析	経済学部・4年・横山那伊磨
努力賞	全国の労働時間&賃金と労働生産性の関係性について〜コロナ前とコロナ後の比較〜	経済学部・4年・三木康平
		経済学部・4年・佐藤克己 経済学部・4年・岸良哉

(学会運営委員会)

真庭市北房でプロモーションビデオを多言語化。

真庭市北房地区は、ホテルの名所として広く知られています。北房地区ではホテルの保護活動を通じた環境保護活動や環境教育が長年行われていることから、ホテルの保護活動を行う拠点づくりが計画され、2022年6月に（公財）日本財団の支援により「里山海交流館しんぴお」がオープンしました。

里山海交流館しんぴおを運営する（一社）北房観光協会から、外国人旅行者や視察団が施設を訪れることがあり、ホテルの保護活動を紹介するプロモーションビデオのナレーションを多言語化してほしいとの相談が、包括協定を結ぶ本学に寄せられました。

2023年9月5日（火）に三好産学官連携センター長と、多言語化を担当する経営学部 松浦教授（英語担当）、黎教授（中国語担当）、徐准教授（韓国語担当）が北房地区を訪れ、（一社）北房観光協会の坂本事務局長から、ホテルの保護活動や北房地区の自然や歴史について説明を受け、委託事業として多言語化に着手することになりました。

9月から11月にかけて担当教員が翻訳作業を行い、11月24日（金）、本学留学生の中から選ばれたヤスミビヤンカヴィジェラヌさん（スリランカ出身、英語担当）、劉楽楽さん（中国出身、中国語担当）と教員が里山海交流館しんぴおを訪れ、ナレーションの録音を行いました。また、12月12日（火）には坂本事務局長が本学を訪れ、金ダエさん（韓国出身、韓国語担当）の録音を行いました。どの留学生も最初は緊張した面持ちでしたが、収録が始まるととても聞き取りやすい発音で原稿を読み上げ、無事にナレーションを吹き込むことができました。

プロモーションビデオが完了した後は、北房地区の自然や歴史を体験できる名所を巡る“北房神秘ツアー”のガイド原稿についても多言語化を依頼され、翻訳作業を行っているところです。

（産学官連携センター）



学術講演会『夢の叶え方、見つけ方 ～物流業の現状から話す未来を拓くための自分の磨き方～』

2023.10.26

10月26日、岡山商科大学同窓会と岡山商科大学学会の共催で株式会社KUBOXT代表取締役社長久保満氏による講演「夢の叶え方、見つけ方～物流業の現状から話す未来を拓くための自分の磨き方～」が行われました。今回の講演会は対面形式で実施され、学生、教職員、同窓会で200名以上の参加がありました。

講演会では、「広島大仏里帰りプロジェクト」を事例としてKUBOXTの理念である「ALL IN」に関するお話、就職活動に対する心の持ち方、物流業の現状など、企業経営に関するお話や学生がこれからの人生で必要になるであろう考え方につながるメッセージを多数いただきました。

講演会中盤では、本来の仕事の意味は「仕事を必要とする相手のためにすること」であると指摘され、これから就職活動を行う学生に対して、働くとは「人のためになる仕事をする」と、つまり、「会社が求める目標や企業理念に沿って自分の能力を生かすこと」とであると述べられました。また、物流業の現状として、2024年問題や物流業の利益率の低さ、それに対するKUBOXTの取り組みなどを具体的な事例を用いて説明され、聴講者は関心を持って聞いていました。

最後に久保満社長は、これから就職活動を行う学生に対して「物事には必ず基本がある。基本を守れ。何事にも尽くせ。そして、仕事は世のため、人のため、利をもって利となさず、切磋琢磨する。」というアドバイスを送り、講演会は盛会のうちに終了しました。

（経営学部 教授 内田浩徳）



青井秀夫名誉教授、 瑞宝中授章受章

岩橋邦彦名誉教授、 秩父宮章受章

法学部名誉教授の青井秀夫先生が令和5年秋の叙勲で瑞宝中授章を受章されました。青井先生は東北大学を退官された後、2006年4月から法学部教授として、教育研究活動に従事され、本学の発展に大きく寄与されました。専門は法哲学でした。

また、本学陸上競技部を長きにわたり指導された経営学部名誉教授の岩橋邦彦先生が、公益財団法人日本陸上競技連盟から「秩父宮章」を授与されました。秩父宮章は陸上競技の発展・普及・人材育成などに尽力した団体や個人に授与される名誉ある章で、岩橋先生は一般財団法人岡山陸上競技協会の副会長として、岡山県の陸上競技の発展に大いに貢献をされました。

（総務企画課）

エッセー
数珠つなぎ

経済学の視点から見る学習インセンティブの設計

経済学部 経済学科 准教授 熊代 和樹

経済学の基本的な用語に、「インセンティブ（incentive）」という概念があります。この言葉は日本語では「誘因」と訳され、「人々に何らかの行動を促す要因」を指します（N・グレゴリー・マンキュー著、足立他訳、『マンキュー入門経済学第2版』、東洋経済新報社）。例えば、プロスポーツで採用されるインセンティブ契約は、成績に対して報酬を提供することで選手の努力を奨励しています。また、交通違反に対する反則金は罰を通じてドライバーの安全運転を促進します。

大学教員が考慮すべきインセンティブ設計として、如何に学生の学習努力を引き出すかという問題があります。金銭的な報酬や罰は利用できませんので、成績評価を通じて学生にインセンティブを提供することになります。しかしながら、学生の努力を直接観察することは難しく、レポート課題やペーパーテストなどを通じて間接的に評価することが一般的です。勉学のインセンティブを与えるためには、しっかり勉強した学生だけが高得点を取れる問題を出題すれば良いと思われるかもしれませんが、努力の量と結果が必ずしも一致しないリスクが存在することが問題となります。

このような状況において、「リスク分担」というアプローチが重要です。リスク分担は、結果に関するリスクを学生全てに負わせるのではなく、教員が一部を引き受けるという考え方です。例えば、成績評価を期末試験の一回のみで行うのではなく、日々の提出物や授業に対するコメントなど、複数の評価軸を設けることが考えられます。経済学の一分野である契約理論では、このリスク分担が不十分であれば、学生が授業を履修しなくなる可能性があることが知られており、学生の学習機会を狭めることにつながります。

一教員としては、学生の学習促進に注力する一方で、学生の視点での授業設計も大切だと感じる今日この頃です。

第58回商大祭

2023年10月14日(土)、15日(日)の2日間、第58回商大祭が開催されました。

今年度のテーマは『前途洋々』

自分の新たな可能性を見つける感動や未来を想像すること、新しいことに挑戦していくという晴れ晴れとした気持ちが込められています。

新たな試みとして、今後30年以内に高い確率で発生すると言われる南海トラフ地震への防災意識向上を目的とした、防災関連展示を「自衛隊」、「岡山市消防局」の協力のもと開催しました。地震体験車による地震体験や非常食の試食、自助を中心とした非常時への備えを体験型学習で多くの地域の皆様に体験いただき大変好評でした。

2日目の15日(日)には、今をトキメク俳優「萩原利久」トークショーが開催され、前売りのチケットが完売であったことから、当日もたくさんの方に来場いただき会場は熱気で溢れ、学生主体の趣向を凝ら



吹奏楽部



模擬店・出し物



BINGO大会

した模擬店やステージイベントは賑わいを見せていました。

2日間という限られた時間ではありましたが、普段の講義では味わうことのできない貴重な経験をさせていただいたことに大変感謝しております。

最後になりましたが、第58回商大祭開催に伴いご協力いただいた学生、教職員の皆さま、そしてご来場いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

(大学祭実行本部)

玉野市フィールドスタディ 番田芋プロジェクトの進捗報告(2) 「番田芋フロランタン」がグランプリを受賞

2023.4.1~

本年度より、なかや宗義(玉野市)や小倉産業(岡山市)、大江紙器(岡山市)、ばんだ農園(玉野市)ら地元企業および農家と本学が連携し、番田芋プロジェクトを進めています。23年9月以降も引き続き、番田芋のブランディングを目標に、市場調査、新商品開発、プロモーション活動などを展開しました。

特筆すべきは、学生がコンセプト開発した「番田芋フロランタン」です。本商品は番田芋の知名度向上と需要の創造、そして玉野市を代表するお土産品を目指して開発されました。連携企業と商品化に向けて改良を重ね、出品した「地域を届ける。第3回せとうちおみやげグランプリ」ではグランプリを受賞しました。24年6月1日から、JR岡山駅から下関駅までのおみやげ街道12店舗で販売される予定です。

その他、玉野市東児商店会から依頼を受けて、「ふれあいフェスティバル in 東児 2023」(11月4日開催)に出店しました。新商品のテストマーケティングと番田芋に関するアンケート調査を行い、地域住民から有益なデータを得ることができました。10月から11月にかけては、ばんだ農園で芋掘りと選別作業を体験し、生産現場の課題にも触れました。

現在、学生たちは調査結果の分析を踏まえて、番田芋のブランド化に向けた課題を整理しています。また、芋焼酎のラベル刷新にもアイデアを出し、今後、発売に向けて容器の選定等を行う予定です。

(経営学部 助教 西 春奈)

五果苑「奇跡の越冬ぶどう」を 活用した商品開発

2023.12.24-25, 2024.1.27, 2024.2.4

果物農園五果苑(岡山市北区芳賀)を経営する本学卒業生市川俊美氏から、開発した特殊な冷蔵熟成技術により翌年の春先まで生のままで出荷できるという「奇跡の越冬ぶどう(商標登録)」を用いた協働案件が持ち込まれ、そのぶどうを使った食品を売るというプロジェクトが始まりました。主体は経営学部商学科三好ゼミ4年生有志6名で、学生たちはこのぶどうをどう使えばよいのかといろいろと試行錯誤、改良を重ねて、出来あがった食品が、串に刺したぶどうに豚バラ肉を巻き付け焼いた「肉巻きぶどう」と、砂糖をコーティングした「ぶどう飴」です。肉巻きぶどうは、一見ミスマッチなような感じもありますが、肉とフルーツは相性がよく、肉の味にぶどうの甘みが加わり絶妙なバランスでおいしく仕上がっていました。学生たちはこれら2つの商品を、2023年12月24,25日に連携している真庭市北房地区のクリスマスイルミネーションイベント、2024年1月27日京山公民館ESDフェスティバル(岡山市)、



2月4日北房ぶり市(真庭市)で販売しました。今後はレシピを下級生に受け継がせ、これら商品の販売を継続していくと同時に、五果苑との協働をさらに発展できたらと考えています。
(経営学部 教授 三好 宏)

石の島“北木島(笠岡市)”で観光商品モニターツアー参加

2023.9.3,10.7,12.20

昨年度から農泊事業で協働する北木島活性化プロジェクト協議会が、観光庁の事業として実施する「観光商品開発モニターツアー」へ参加協力依頼があり、学生4名を派遣しました。インバウンドに備えたいと同会からの要望により、中国からの留学生4名で構成しました。

9月3日(日)のツアーでは、同日に開催されていたイベント「北木島で島地フェスタ」の中で、丁場湖湖上ステージを会場としての「AIファッションショー」が開催され、本学留学生4名と北木島の一般市民3名が出演しました。その後は、島内で過去に営業していた「光劇場」、



北木島において古くから花崗岩を産出し、現在も高品質な石を求め採掘が続き高さ60mにもなる絶壁を見学できる「石切展望台」、中国の桂林のような絶景を楽しめる「北木島の桂林」とされる今岡

丁場跡、訪れた時間帯の水位や日光の光の加減でその姿を変える「北木島のベニス」とされる千ノ浜の護岸景観等を回り、船で北木島沖の牡蠣筏へ向かい、北木島勇和水産(北木島活性化プロジェクト協議会)・藤井和平氏から喜多輝牡蠣ブランドの説明を受け、牡蠣の引き上げ収穫を見学し、殻付き生牡蠣の試食を行いました(県内において殻付き生食は北木島のみ可)。10月7日(土)のツアーでは、夜に白石島で開催された「アイエスツール花火大会in白石島」を見学するため、船で白石島沖へ移動し船上から花火を見学しました。

参加した留学生からは、「海のない場所で育ったため、綺麗な景色が見られて良かった。北木島のベニスの海のグラデーションが美しい。魚釣りも体験したい」や「展望台は高くて怖かったが、貴重な景色をみた。AIファッションショーのモデルは、モデルの解析デバイスがすごかった。モデルとして歩いて緊張したが楽しかった。」「船上から花火を見たのは初めてで感動した」などの感想が聞かれました。

12月20日(水)に学内にてクロージング会を行い今年度の事業を終了しました。
(産学官連携センター)

キャリアセンター便り

2024年3月卒学生の就職活動を振り返って ～コロナ禍収束後の就職活動～

2024年3月卒学生（以下、24卒学生）の就職戦線は、コロナ禍収束による経済活動の回復によって、企業の人材獲得競争が増した売り手市場となりました。

多くの企業では優秀な人材を早期に確保しようと、インターンシップ等を実施し、参加学生を対象とした早期選考を行いました。そのため本学としては、3年生の夏季から実施されるインターンシップ等への参加を積極的に勧めました。このように就職活動解禁日（3月1日）を待たずして、3年生の夏季から就職活動が緩やかにスタートされました。



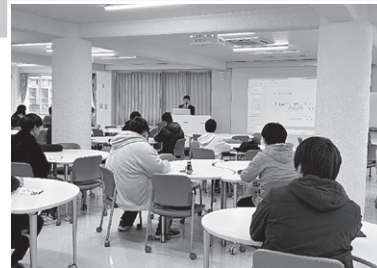
学内合同業界（企業）
説明会の様子

24卒学生はコロナ禍とともに大学生活を始めた学年です。このことが就職活動に何らかの影響を与えるのではないかと不安でしたが、人材獲得競争の高まりで、本学の6月末の就職内定率は56.4%となりました。その後も内定率は順調に推移していき、4年生の前期が終わる9月末には82.8%となり、厚労省・文科省調査によって発表された内定率（10月1日現在

74.8%）を大きく上回ることができました。

24卒学生の動きの特徴としては、活動開始の早い学生と遅い学生の二極化が更に進んだことです。これは就職活動の早期化により就職活動解禁日に起こる大きな活動の高まりが無くなったことで、意識の低い学生が高い学生に触発されて動く機会が少なくなったことが一因であると考えています。キャリアセンターとしては、学生と企業との間を繋ぐため、一対一の説明会を設定して徹底した個別支援に取り組みました。このような地道な取り組みによって、12月末の就職内定率は94.0%となりました。

本学の2月末現在の就職内定率は97.8%であり、昨年を若干上回ることができました。昨年に引き続き高い内定率を維持できたのは、売り手市場の追い風に乘れたということもありますが、学生とキャリアセンターとが信頼関係を構築できたことにより、互いに協力しながら就職活動に取り組んだ結果だと思っています。



社会人準備セミナーの様子

2025年3月卒学生の動き

2025年3月卒学生については、学生との面談などからインターンシップ等に多くの学生が参加したと思われます。また、キャリアセンター主催の就職支援行事では、WEBから対面開催に切り替えたことで参加者の減少はあったものの、コロナ禍前を上回る参加者でありました。このことから、早期化に対応しながら、就職活動解禁日（3月1日）を迎えることができたと考えています。

現在就職活動中の学生に対するアドバイスは、長期化している就職活動をマラソン競技だと思って取り組んでほしいという

ことです。夏季のインターンシップ等への参加から、既に半年以上が経過しています。学生によっては、「早くから活動しているのに成果が実感できない」、「まだ内々定を得られない」など、不安や焦りがあるかと思います。しかし、就職活動はこれから本番です。粘り強く取り組むために、疲れた時には少し休み、リラックスできる時間も設けながら、自分のペースで就職活動に取り組んでほしいと思います。また、既に内々定を得た学生は、安心してペースダウンしないように、自ら納得いくまで就職活動を継続してほしいと思います。

Asia Report アジアレポート

孔子学院便り(2023年度活動報告)

岡山商科大学孔子学院は、2007年6月に「中国孔子学院本部」から設置が認可され、同年11月に中国側協定大学である大連外国語大学と業務提携調印式並びに開設式を執り行い、今年では設立16周年を迎えました。2020年6月に、孔子学院の所属は「中国孔子学院本部」から「中国国際中文教育基金会」という中国の関係大学、企業、民間団体が共同で設立した組織に移行しました。そして、2022年12月に「中国国際中文教育基金会、中国大連外国語大学と日本岡山商科大学が孔子学院を共同で設置することに關する協定書」が署名され、「岡山商科大学と大連外国語大学『岡山商科大学孔子学院』に関する業務提携協定書」が更新されました。

本学院は2023年度も中国語教育や様々な文化交流活動を行いました。特に新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていた伝



伝統芸術鑑賞会（2023.10.15）



中国伝統文化講座（2023.12.23）



中国絵画講座（2024.1.6）

統芸術鑑賞会は4年ぶりに開催され、大連外国語大学芸術団をお迎えし、第58回大学祭のメインステージと孔子学院で中国民族楽器の演奏会を行いました。さらに、大連外国語大学美術学部から講師をお招きし、中国水墨画についての中国絵画講座を開催しました。その他、中国語講座、ラジオ中国語講座、中国語作文コンテスト、中国語スピーチコンテスト、中国文化サロン、中国伝統文化講座など年間を通して数多くの事業を展開しました。

（孔子学院長 黎 曉妮）

2023年度の部活動の主な戦績

2023年度は多くの部活動が、中国大会・全国大会で優秀な戦績を収めました。ここではその一部を紹介します。

剣道部は第43回中国四国学生剣道新人大会で、1・2年生が中心のチームで戦い抜き見事創部初の準優勝を収めました。来年度以降も稽古に励みさらなる活躍を期待しています。

卓球部は第74回中国学生卓球選手権秋季大会で男子団体戦優勝、女子団体戦準優勝、個人種目においても上位進出し、第89回全日本大学総合選手権（個人の部）に12名の出場を果たしました。来年度以降も全国大会での活躍を願っています。

柔道部は全日本学生柔道大会に出場し全国ベスト16に進出しました。ベスト16進出校のうち関東圏の大学以外では本学を含め2校だけであり、地方大学の底力を見せた大会となりました。来年度は是非、ベスト8入賞を目指してほしいです。

陸上競技部は日本学生陸上競技個人選手権大会の女子砲丸投種目に出場しました。全国のトップ選手が集まる大会で5位入賞を果たしました。今後もしっかりとトレーニングを積んで、全国での優勝を期待しています。

その他に特別国民体育大会に陸上競技部3名、ボウリング部2名が出身各県の代表として出場しました。国民体育大会に出場することはとても名誉あることなので、大会での経験を今後の競技人生に生かしてほしいと思います。

2023年度は陸上競技部、ゴルフ部、弓道部、剣道部、卓球部、男子バスケットボール部、柔道部、ボウリング部が厳しい予選を通過し全国大会に出場を果たしました。大会に出場し優秀な成績を残すことができるのは多くの方の支援あってのことです。支えてくださる方々に感謝し、2024年度も活躍できるように学生、指導者ともに頑張ります。

サークル名	学生氏名	学年	大会名	種目	順位	出身校
ウエイトレーニング部	松岡 大雅	2年	第42回関西学生秋季パワーリフティング選手権大会	男子59kg級	優勝	府中高校(広島)
	城下 風斗	1年		男子53kg級	準優勝	クラーク記念国際高校(岡山)
弓道部	南 昂聖	4年	第69回中国四国学生弓道選手権大会	男子個人戦	3位	岡山南高校(岡山)
	小見山愛実	3年		女子個人戦	優勝	明誠学院高校(岡山)
	南 昂聖	4年	第69回東西学生弓道選抜対抗試合	男子団体戦	最高の 中者賞	岡山南高校(岡山)
				男子団体戦	優勝	岡山南高校(岡山)
	南 昂聖	4年		男子団体戦 西軍：西日本の代表選手として選出	最優秀選手	岡山南高校(岡山)
剣道部			第70回中国四国学生剣道大会兼 第50回中国四国女子剣道優勝大会	男子団体戦	3位	
			第43回中国四国学生剣道新人大会	男子団体戦	準優勝	
			第71回全日本学生剣道選手権大会	男子個人戦	2名出場	
硬式野球部			令和5年度中国六大学野球1部 リーグ秋季リーグ戦	男子団体戦	5位	
	赤松 泰知	3年		個人賞	首位打者 ベストナイン(外野手)	
ゴルフ部	熊谷 夢乃	4年	第40回中国四国学生ゴルフ会長杯争奪戦	女子個人戦	優勝	高松中央高校(香川)
	熊谷 夢乃	4年	第40回中国四国学生ゴルフ王座決定戦	女子個人戦	優勝	高松中央高校(香川)
	福島 せる	4年	第59回日本女子学生ゴルフ選手権大会	女子個人戦	出場	
			常陸宮妃第2回全日本女子大学ゴルフ選手権	女子団体戦	出場	
射撃部	佐藤 宝仁	4年	関西学生スポーツ射撃選手権秋季大会	BP団体戦	優勝	立正大池南高校(島根)
	佐津間昌洸	3年				立正大池南高校(島根)
	布野俊一朗	1年		AR団体戦	3位	倉敷翠松高校(岡山)
	内田 惟斗	4年				小松島高校(徳島)
柔道部	戸田 陽翔	1年	2023年度全日本学生柔道優勝大会	男子団体戦	ベスト16	
				女子団体戦	出場	
			2023年度全日本学生柔道体重別選手権大会	個人戦	男女17名出場	

サークル名	学生氏名	学年	大会名	種目	順位	出身校
卓球部			第89回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)	男子ダブルス	3ペア出場	
				男子個人戦	5名出場	
				女子ダブルス	1ペア出場	
				女子個人戦	3名出場	
			第92回全日本大学総合卓球選手権大会	団体戦	男女出場	
			第19回全日本学生選抜卓球選手権大会	個人戦	男女7名出場	
	前川 楓 柏 日愛	1年 1年	第45回中国学生卓球連盟会長杯 争奪卓球大会	女子ダブルス	優勝	玉野光南高校(岡山) 岡山商大附属高校(岡山)
	三宅 陽太 黒江 一平	1年 1年	第55回中国新人学生卓球選手権大会	男子ダブルス	優勝	玉野光南高校(岡山) 岡山商大附属高校(岡山)
男子バスケットボール部			第1回全日本大学バスケットボール新人戦中国地区予選会	男子団体戦	準優勝	
			第1回全日本大学バスケットボール新人戦	男子団体戦	出場	
ボウリング部	村上 愛実	3年	特別国民体育大会ボウリング競技	団体戦 4人チーム	7位入賞	岡山理科大学附属高校(岡山)
	南 玲良	2年		団体戦 4人チーム	出場	福岡第一高校(福岡)
	山崎 優	4年	第61回全日本大学ボウリング選手権大会	女子個人戦	3位	富山西高校(富山)
陸上競技部	奥山 琴未	1年	2023年度日本学生陸上競技個人選手権大会	女子砲丸投	5位入賞	岡山商大附属高校(岡山)
	奥山 琴未	1年	日本グランプリシリーズ グレード3 2023年水戸招待陸上	女子砲丸投	6位入賞	岡山商大附属高校(岡山)
	藤木 海斗	3年	第46回中国四国学生陸上競技選手権大会	10000mW	優勝	高松農業高校(岡山)
	奥山 琴未	1年		やり投げ	優勝	岡山商大附属高校(岡山)
	松浦 大雅	3年	特別国民体育大会陸上競技	成年男子 100m	出場	開星高校(島根)
	村上 玉藻	1年		成年女子 4x100mR	出場	明誠高校(島根)
	奥山 琴未	1年		成年女子 砲丸投	6位入賞	岡山商大附属高校(岡山)

(学生課)

税理士と宅地建物取引士の合格について

今年度も資格試験に挑戦し、国家資格の合格者が出ています。

税理士試験では、経営学部経営学科3年生の牧浦菜桜さんが財務諸表論に合格しました。同学生は「来年度、さらなる科目合格を目指しています」と次年度に向けての意欲が感じられました。

宅地建物取引士試験には、経営学部経営学科3年生の松尾悠夏さん、経営学部商学科3年生の坂下巧陽さんが合格しました。

本学では難易度の高い資格取得に向け、資格専門学校とのダブルスクールを推奨しています。大学の授業との両立は容易ではないと思われますが、しっかり対策を取った学生は合格に結びついています。

商大塾では資格取得に向けた学生の支援を行っていますので、いつでもご相談ください。



合格報奨金の授与の様子

(社会総合研究所・商大塾)

新校舎をVRで体験できます

2024年度末の竣工を目指して、新校舎の工事が進められています。建物は1階から2階まで吹き抜けとなったラウンジを中央に備え、3階には青空がみえる中庭が広がるなど、学びだけでなく、くつろぎのための空間も多数設けられます。その新校舎をいち早く体験していただくため、VR(ヴァーチャルリアリティ、仮想現実)空間に建物の一部を構築しました。(左下のQRコードから体験できます)



スマートフォンやタブレットでは、タップで移動、スワイプで視点を動かせます。右上の「外観」「エントランス」「ホール」等を押すと、簡単に地点移動ができます。

VRでは外観、1階エントランス、1階ホール、2階、3階(中庭)を体験できます。ホールでは、ラウンジとホールのシーン切り替えのボタンがあります。また、3階へ移動(新しいタブが開きます)するボタンもあります。

VR空間は、VRゴーグルでもお楽しみいただけます。以下のアドレスをVRゴーグルのブラウザへ入力してください。右下の「VR」ボタンで開始します。

「<https://ataikikaku.shapespark.com/okayamasyoukadai/>」



※注意事項:①VRはご使用機器の性能やOS、ブラウザのバージョンにより動作しないことがあります。②VR空間の新校舎や什器類は予想図であり、実際の校舎と異なることがあります。また周囲の画像はダミーです。③VRゴーグルの動作確認は「Meta Quest2」でのみ行っています。

(総務企画課)

キャンパスメンバーズ制度について

皆さん、県内の博物館等が無料で入館できるキャンパスメンバーズ制度をご存じでしょうか。

この制度は、岡山を代表する大名庭園のひとつ『岡山後楽園』、日本最初の西洋美術中心の私立美術館『大原美術館』、江戸時代の蔵を改修した博物館『倉敷考古館』など、若者に岡山県の観光地や歴史的文化的価値を認識してもらい造詣を深めてもらうほか、これら施設の魅力を県内外へ情報発信してもらえるよう、利用しやすい環境を整えて利用機会を拡大させるために設けている制度です。

日本における文化財のひとつ『特別名勝』に指定されている後楽園では一度足を踏み入れるとたちまち元禄時代へタイムトリップ。名のある画家が描いた絵画のような幻想的庭園の光景が目の前に広がることでしょう。また、大原美術館では日本にあることが奇跡といわれるエル・グレコ作の『受胎告知』や、誰もが教科書で一度は目にしたことのあるクロード・モネの『睡蓮』など西洋絵画が所狭しと並んでいます。そして吉備地方の遺跡で出土した石器など約700点を展示している倉敷考古館など岡山県の観光地が学生証の提示によりなんと無料で鑑賞が可能になります。

歴史に興味のある学生の皆さん、今まであまり関心がなかった学生の皆さん、是非このキャンパスメンバーズ制度をご活用いただき、岡山県の誇る歴史的文化的価値を目で見て、肌で感じて岡山県の“文化博士”になってみませんか。

(学生課)

創立60周年記念事業 岡山商科大学躍進募金 寄付者芳名

岡山商科大学躍進募金へご協力いただき、心よりお礼申し上げます。

寄付をいただいた皆様へ深く感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。

寄付者の顕彰について

1	1万円以上	本誌に氏名公表
2	10万円以上	銘板を設けてご芳名を記載し、末永く顕彰させていただきます。
3	100万円以上	銘板での顕彰等のほか、感謝状贈呈
4	500万円以上	銘板での顕彰等のほか、特別感謝状贈呈

寄付者芳名の掲載について

・2023年3月1日～2024年2月29日にご寄付をいただいた方々を掲載させていただいております。(五十音順)

・誠に恐縮ではございますが、お名前の誤り等、他お気づきの点がございましたら、岡山商科大学躍進募金事業委員会事務局までお知らせください。

◇法人

10,000,000円

蜂谷工業株式会社 様

500,000円

株式会社コンケン 様

100,000円

株式会社荒木組 様

おかやま信用金庫 様

小野藤株式会社 様

国際セーフティー株式会社 様

山陽事務機株式会社 様

株式会社中電工岡山統括支社 様

ときわグループ 様

友野印刷株式会社 様

株式会社富士広告社 様

丸善雄松堂株式会社岡山支店 様

100,000円未満

株式会社栄光スポーツ 様

岡山放送株式会社 様

テレビせとうち株式会社 様

西日本放送株式会社岡山本社中国総支社 様

株式会社瀬戸内海放送 様

株式会社エネコム 様

匿名 1社

計11,790,000円

◇個人(一般)

300,000円

木村 卓爾 様

森田 祥男 様

100,000円

青木 正雄 様

有利 隆一 様

大川 佳郎 様

片山 峰伸 様

金谷 芳寛 様

北殿 勝美 様

喜田栄次郎 様

久保 善正 様

富永 悦夫 様

西山 俊明 様

50,000円

石島 弘 様

川崎 雅生 様

50,000円未満

有富 絹 様

加藤 義久 様

金出 良雄 様

田頭 敬康 様

田頭 一志 様

田中 孝治 様

谷崎 賢二 様

平池 泰彦 様

松田 寿男 様

三好 範明 様

村上 文雄 様

粉 智修 様

山本 幸生 様

山元 靖 様

横川健二郎 様

横山 叶留 様

王 恩沢 様

匿名 3名

計1,970,000円

学園関係者(教職員)

計310,000円

募金についてのお問い合わせ先

学校法人吉備学園

岡山商科大学躍進募金事業委

員会事務局

〒700-0087

岡山市北区津島京町

2丁目10-1

TEL.086-252-0642

FAX.086-255-6947

E-Mail:

kouhou@po.osu.ac.jp